

# 建設水道常任委員会記録

令和4年2月1日(火)午前9時59分～午前10時33分(9階 908 会議室)

## ○出席委員(8名)

委員長	萩原 太郎
副委員長	斎藤 正臣
委員	佐々木 優
委員	二階堂 利枝
委員	後藤 善次
委員	梅津 政則
委員	大平 洋人
委員	二階堂 武文

## ○欠席委員(なし)

## ○案件

- 1 所管事務調査について
  - (1) 調査テーマについて
  - (2) 所管事務調査実施内容(案)について
- 2 その他

---

午前9時59分 開 議

(萩原太郎委員長) ただいまから建設水道常任委員会を開会いたします。

本日の議題については、所管事務調査についてを議題といたします。

前回の委員会においては調査テーマについてご協議をいただきましたが、皆様のご意見を基に正副委員長手元で整理し、調査イメージや調査の方向性等の観点により、複数挙げられました調査テーマの中から候補を3つに絞らせていただきましたので、ご確認いただきたいと思います。

それでは、調査実施内容(案)一覧をご覧ください。今回候補として取り上げたテーマは、脱炭素社会の実現に関する調査、そして再生可能エネルギーの生産、活用推進に関する調査、最後に除雪に関する調査の3つになります。

こちらの一覧の内容について、5分程度時間を取らせていただきますので、黙読いただきますようお願いいたします。

では、始めてください。

【資料黙読】

(萩原太郎委員長) お読みいただけましたか。よろしいですか。まだ時間早いのですけれども、お読みいただけましたら黙読終了したいと思います。

お読みいただいたこの3件について何かご意見ございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) 何もなければ、皆さんからこの3つの中から1つの調査テーマを皆さんで選定したいと思います。それで、1人ずつ、この中からどれがいいかというようなことでお話しいただければと思います。

では、大平さんからいいですか。何かある、その前に。

(後藤善次委員) でも、番号ついているのではない。

(萩原太郎委員長) 1番、2番、3番で。

(斎藤正臣委員) 優先順位。

(萩原太郎委員長) これは優先順位でございませんので。

(梅津政則委員) 前回皆さんからいろいろ意見を出してもらって、見やすいように整理してもらったことはありがたいと思うのですけれども、ここにまとめていただくまでに多分正副委員長の中で、項目ごとにストーリーとかっていろいろ考えていただいたと思うのです。それで、もし正副のほうで腹案があるのであれば、ここで全員の意見を聞いて拡散させるよりは、私は正副のほうに任せつつもりでいたので、腹案があるのであれば、それについてちょっと諮っていただいたほうがいいのかなと、私一人の意見ですけれども、あと皆さんどう思われるか。

(萩原太郎委員長) ただ、ぜひやっぱり……

(後藤善次委員) 異議なし。

(萩原太郎委員長) このほうがよかったとかというようなこともあるかもしれませんので。

この3つでございますけれども、ちょっと考えなくてはいけない部分があるというふうに思います。

例えば1番の脱炭素ということでありますと、担当のほうが広範囲にわたる、農政部、農業委員会、都市政策、多岐にわたりますけれども、建設水道所管以外はちょっと調査できないということでありますので、どこまでこの調査に対して提言ができるかというところが不明というふうな形で思っております。

2番目の再生可能エネルギーのほうですと、どのような方向にまとめていくかというふうなところも検討しなくてはいけない部分もございます。

そこで、除雪に関することが一番身近かなというふうに思っております。しかしながら、その報告時期、1年間ずっと通して調査はいたしますけれども、当初予定していた来年3月に除雪の提言をするというのはちょっと時期を逸してしまうのか。除雪に関してはやはり12月の議会あたりに報告して、少しでも反映できればというふうな部分もございます。その辺も鑑みまして、思うところがあるので

すけれども、そういうようなところも加味して、どうですか。正副で判断してしまいますか。それとも、やっぱりこれがいいということはございませんか。大丈夫ですか。

（大平洋人委員）正副の考え方のもので。

（萩原太郎委員長）そのようなことで選定しますと、やはり今回降雪に対する除雪の問題が大きくて、そしてまた市で取り組むというふうなこと、上の2つについては国、県の縛りのほうもあるということもあって、提言できて、また実施可能なところで調査できればということであれば、除雪に関する調査で進めてはいかがかなというふうには思っておりますが、皆さんのご意見もお伺いしたいと思います。

（大平洋人委員）そうすると、3月ではなくて、今年の12月に……

（萩原太郎委員長）そこら辺も、3月と言ったスケジュールはありましたけれども、テーマを決めてから、話の中では前倒しするというふうなことも可能かなと。また、じっくり、3月でもやむなしということであれば、それはそれで進めるほかないと思いますけれども。

（後藤善次委員）暖冬になったりしてね。何、雪の話なのだなって、ぴんどこなくなってしまうたりして。

（萩原太郎委員長）せっかくまとめたら降らなかったと。

（二階堂武文委員）続きましたからね。まるっきり雪が降らないのは3年くらい前にありましたけれども、前シーズン、今シーズンと雪が多いので、意外と次あたりはちょっと、波がありますね。

（梅津政則委員）降るの前提で構えるのって金を出せばできるのですけれども、今出た降らなかったときも、対応と言うとおかしいですけれども、地元の企業さんも含めて、損しないよというのか、そういう活用方法と言うとおかしいですけれども、それも含めて、活性化も含めて考えるのであれば、除雪もいいと思いますし、報告の時期も、そんなに前倒しだ、前倒しとこだわることもないのかなというところは思うところはありますけれども。

（後藤善次委員）今回市長の提案だと思うのですけれども、官民協働して除雪に当たろうという方向性を打ち出されて、我が地域、我が家の周りは自分たちで頑張ってくださいねと、そんなようなこともあったので、官民の協力のいろんな事例なんか市民の方に提供する。それから、高齢化と除雪というのかな、これ除雪だけにかかわらず、市民の協力というのかな、お年寄りの方と若い人たちとか、何かいろいろとテーマって広げられるのかなという気はしますよね。

もう一つは、もし12月まで引っ張らないで、9月で提言してしまっって、あとの残りはもう一つ、軽いやつをまた見つけて、やると、そういうこともできないことではないのかなと思います。

（萩原太郎委員長）ほかにご意見いかがですか。

今お話に出ました。雪が降ったら降ったような対応、それから降らなかったら降らなかったような対応も必要だというところ、もっともだというふうに思っております。また、行政でなくて、地元の自助、共助、その辺も必要だというふうなことに絡めると、除雪というテーマはいろいろな面では広

がるし、また提言をしやすい部分もあるのかもしれませんが。

（梅津政則委員）話がちょっとずれるかもしれませんが、この雪のやつって大変な思いしているのって県北で福島市だけなのですか。何でかという、連携中枢都市圏とかの話も出る、県北での連携の在り方とかのほかの状況というか、県北での降雪の状況とか、そういうのもどうなのかななんてちょっと、ふと思ったものですから、発言しました。

（後藤善次委員）かえってか、福島市ぐらいの行政の大きさのほうが大変なのではないですか。伊達市とかって結構まめに除雪されたという。

（梅津政則委員）そうですか。何か川筋で福島市が一番大変な思いしているだけなのかななんて、その降雪の状況とかもいまいちちょっと分かっていないところもあって。

（後藤善次委員）今回の雪は結構福島市が、二階堂さんの地元とか、飯坂方面とか。

（二階堂武文委員）全国的に多いですね。東北の日本海側。

（梅津政則委員）日本海側は多いですけども、事県北では松川筋とかが結構被害を、あと摺上川筋とかですか。あと、吾妻のほうもですけども。

（後藤善次委員）あまり雪の降らないところで降ったというのでは福島市は影響大きいですね。

（萩原太郎委員長）私がよく言われることがあるのですが、大波と向こうの、主にその境で、こちらは管轄が県北建設事務所で、向こうは保原土木事務所というところで、業者が115号線のところを境に違うのですけれども、向こうの掃き方はとてもきれいで、雪を残さないで掃く、こっちはぼこぼこという除雪しかできないとかというふうなところをよく聞くのですけれども、ちょっと建設事務所のほうにも言っていたことはあるのですけれども、機械が違うとか、熟練度が違うとか、オペレーターの、そういうふうなところも言われますので、そういう部分もいろいろ加味して、除雪の仕方についても違うようなところはあるのだなというふうにはちょっと思っていたところがありました。

（二階堂武文委員）今の話ですけども、機械、あとオペレーターの熟練度と同時に、掃く時期の問題があるのです。一番大きいのは掃くタイミング。降ったときに掃けばきれいに誰でも掃けるのですけれども、どうしても順位がありますよね、1番、2番、3番で。バス通学路から、バス道路から始めて。そうすると、遅れたところはもう踏み固められているので、誰が掃いてももう凸凹で、パワーショベル持ってきて剥がさないと取れないとかという状況に、八島田街道なんかそうですものね。ベニマルに行くときなんかよくありますけれども。

（後藤善次委員）緑色の道路ね。3番目の。

（二階堂武文委員）だから、いろんな要素は絡んでいますね。ただ、その辺もちょっと調べてみるとか何かというのは、この機会に。

（梅津政則委員）氷にならなければ、圧雪だったら何ぼ固く踏み固めているやつでもグレーダーで剥がれます。だから、時期は大きいと思います。

（後藤善次委員）気温が低かったのですよね、今年は。

（二階堂武文委員）そうですね。それが大きかった。

（梅津政則委員）それにしてもグレーダーで早めに行けば。ただ、それやると沿道のところからクレーム出かねないですけども、そこでちゅうちょしているから、遅くなったというふうにも思っていますけれども。

（二階堂武文委員）10センチを超えて、15センチ、20センチが予想されるときに出動するとかってあるのですけれども、やっぱり10センチ、15センチ、20センチぐらいまでだったら許せるのですが、大体40センチ、50センチになると、今梅津さんおっしゃったように、掃いた雪をのけるだけなので、駐車場を塞ぐとか、10センチ、20センチだったら塞がれてもあまり気にならないで済むのですが、40センチ、50センチの雪を脇に寄せられて、駐車場を塞がれた人が夕方7時、8時に疲れて帰ってきたときに、駐車場に入れられないから、すぐ市役所に苦情の電話、怒りの電話を入れるとか、近所でもそういうのありました。雪の量が多かったですね、うちの辺りは。

（梅津政則委員）いずれグレーダーとホイールローダーとロータリー除雪のやつとかの使う順番とか台数とかというのはやっぱりちょっと考えていかなくتهはいけないところもあると、ちょっと受け側の建設業者さんの体力的なものもあるとは思いますがけれども。

（二階堂武文委員）除雪インフラというか、それがもう、前もちょこっと出ましたけれども、年々いろいろ公共事業が厳しくなる中で建設業者さんがだんだん生き残れなくなって、自分で除雪機とか重機を持たなくなってしまうとか、パニック的に一気に雪が降ったりなんかするときに頼みようがない、動けないという状況が、全国そうなのでしょうけれども、やっぱり建設業界の厳しい状況が果たして、前も国会に言っていたなんていう話をご紹介しましたけれども、それは大きく見てしまうとやっぱり課題なのでしょうね。危機対応がすごく難しくなる。

（梅津政則委員）中通り辺りなんてほとんどレンタルでしょう。

（二階堂武文委員）そうですね。今地元の建設業者さんにオペレーターを頼んでおいて、重機は県の重機を松川べりとか何かの空き地に置いておいて、オペレーターは建設会社のオペレーターを頼むとかというやり方をやっているところは何か所かありますよね。ロータリーの縁石すれすれまで垂直に除雪できるやつとかというの、多分あれ県しか持っていないのではないですかね。

（梅津政則委員）あれ、だって億単位でしょう、物は。元が億単位で、管理費入れたらば相当です。

（二階堂武文委員）だから、民間で持てないですよ。

（後藤善次委員）除雪の流れ、そこに私らが意見を出そうとすると、これなかなか難しいことだね。だから、市民の意見と、それから行政側に提言するもの、それは機械の選定とか、オペレーターのレベルアップとかというのはちょっとなかなか難しいレベルになってくるでしょうね。だから、提言できるところというのはまた別な角度になってくるのかなという気はしますがけれども。

（二階堂武文委員）いろんな意味でそういった除雪している業界の皆さんからも何かこの除雪に対して言いたいことなんかありそうな気がするとか、この間のいろんな行政との取組の中で、こうし

たらもう少し自分たちも危機対応がしやすい、業界として協力できるのだけれどもとかつて思っているものはいろいろあろうかなという気はちょっとしますので、この機会にいろんな業界の皆さんの、こうしたらスムーズな除雪ができるだろうという意見を聞いて、それを取りまとめて、何か提言するというのも、それはそれで私どもの役目を果たせるのかなという気はちょっとしないではないですよ

ね。

（萩原太郎委員長）いろいろご意見、除雪のほうで上がりましたけれども、まだちょっと発言されていない佐々木さん、いかがですか。

（佐々木優委員）おおむね。

（萩原太郎委員長）おおむね了としますか。

（佐々木優委員）はい。

（萩原太郎委員長）二階堂さん、いかがですか。

（二階堂利枝委員）これはもう除雪が前提なのですよ。

（萩原太郎委員長）まだなのですからけれども、除雪の話でちょっと皆さんの……

（二階堂利枝委員）除雪も本当に大事なのですけれども、例えば家にロードヒーターを入れるとか、何かそういったこととかもあるとかというのはまた別の話になるのですか。

（萩原太郎委員長）ロードヒーターですか。例えばあづま陸橋とかにある下り車線は危ないからって熱入っているとかという。

（二階堂利枝委員）例えばそういう除雪だけというのではなくて、道路の本当に危ないところにそういうものをもうちょっと福島市でも使っていこうみたいなこととかは、この除雪とは別の話になるのですか。

（萩原太郎委員長）除雪に関することだと思いますけれども。

（二階堂利枝委員）そういうことも除雪のことになるのですか。米沢とか、お湯が出たり……

（大平洋人委員）水ね。

（二階堂利枝委員）水ですか。

（萩原太郎委員長）費用対効果の話もあると思いますけれども、やっぱりそういうところが必要で、しょっちゅう、しょっちゅう事故があつてというふうなところはいろんな方法が取られるというふうに思っていますけれども。

（二階堂利枝委員）そういうのもちょっと、今だともっとこういうものがあるのだよとか、そういうものも調べていたら、あつ、こんなことでこんなことが解決するのだなみたいなのが、一生懸命重機でやることだけではなくて、何かもうちょっとあるのかなとは思っています。すみません。ちょっと話がずれていて。

（萩原太郎委員長）雪国での雪国対策とか、あとはあまり降らない、たまに降って困るという地域の対策とか、そういうものをいろいろこれから調査しましょうというところですから、そういうような

ものも調査の対象になってくるのかというふうにも思いますけれども。

それでは、お諮りしたいと思いますが、調査テーマについては除雪に関する調査ということで進めてよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) それでは、除雪に関する調査に決定したいと思います。

次に、決定した内容を踏まえ、議長に提出する調査申出書に記載する内容の案を用意いたしましたので、この案をご確認いただいて、今回の所管事務調査の実施を正式に決定したいと考えております。

それでは、書記に資料を配付させます。

【資料配付】

(萩原太郎委員長) 皆さんに配付いたしましたので、ご確認ください。戻っていただきまして、調査テーマの所管事務調査実施内容案ということで、入りましたですね。

こちらを見ていただいて、ちょっと読ませていただきます。調査事項として、除雪に関する調査というふうなことで、調査目的、昨今の異常気象に伴い、突発的に発生する大雪被害に対し、市民と行政が連携し、除雪の取組を進めていくことが重要となっている。このことから、除雪の取組について調査を行うことにより、降雪による市民生活や社会活動への支障を低減し、安心安全な道路環境の保全を図るため、本市の除雪対策の推進に資することを目的とする。3、調査の方法、当局説明、参考人招致、行政視察等の方法により行う。4番、調査期間は令和4年2月から調査終了時までの期間とするというふうなことで進めたいと思いますが、皆さんのご意見をお伺いいたします。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) ないということですので、そのようにさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

この議題について、このほか何かご意見はございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) なければ、以上で所管事務調査についてを終了いたします。

次に、その他を議題といたします。

委員の皆さんから何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) ないようですが、前回、自由協議の中で、金沢第一埋立処分地の現在の状況についてご質問がありましたが、当局に確認いたしましたところ、金沢埋立処分地に保管していた指定廃棄物ということで8,000ベクレルを超えるものでございますが、令和元年5月から搬出を開始し、令和元年7月に搬出を完了しております。金沢第二埋立処分場に保管している指定廃棄物については、令和元年7月から搬出を開始し、令和5年9月まで搬出作業が行われる予定となっております。金沢埋立処分地と金沢第二埋立処分場に一時保管している8,000ベクレル以下の焼却灰については、指定廃棄

物の搬出作業が終了する令和5年9月以降のできるだけ早い時期に埋立てを開始できるよう準備を進めているとのことであります。

なお、より詳細な説明が必要な場合は、正確な内容をお伝えするために、当局説明もしくは現地調査などの方法により、当局から説明を求めることといたしますが、この件についてご意見はございますか。

（梅津政則委員）意見ではないのですけれども、8,000ベクレル以下のやつの埋立てというのは第二に埋め立てるということなのですか。それって地元の人の了解得たのかな。

（後藤善次委員）8,000ベクレルも、以上のものが終わったら搬出するとなるのでしょうか。

（梅津政則委員）いや、埋め立てると言いましたよね。

（萩原太郎委員長）8,000ベクレル以下の焼却灰、フレキシブルコンテナ収納の飛灰については、指定廃棄物の搬出作業が終了する令和5年9月以降のできるだけ早い時期に埋立てを開始するというふうなことです。

（後藤善次委員）処分場で埋め立てるということなのだね。搬出しないで。

（萩原太郎委員長）8,000ベクレル以下はというふうなことです。

（梅津政則委員）それ地元の了解とかって得なくては駄目なので、だから今仮置きになっているのですよね、多分。だって、処分場を造ったときにそういうやつを埋め立てるなんていう取決めはどこにもないから、地元の人の了解は必ず得なくてはいけないと思うのだけれども、いずれそれは取りあえず現状は理解しましたけれども。

（後藤善次委員）大熊に今搬出しているということなのですね。

（萩原太郎委員長）中間貯蔵施設に、これですと、第一の金沢処分場に保管していたものは完了しています。第二のほうは現在も搬出して……

（後藤善次委員）令和5年まで。

（萩原太郎委員長）はい。令和5年9月まで続けるというふうな内容でありましたけれども、また前にもお話ししていましたように、現地調査とかというふうな部分も考えられますので、そのときにまた詳しくお話を聞く機会はあるかと思います。

この件について、よろしいですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（萩原太郎委員長）なければ、以上で本日の建設水道常任委員会を閉会いたします。

午前10時33分                  散      会

建設水道常任委員長

萩 原      太      郎